

## 第1回 瀬戸大橋・周遊観光ワークショップ 議事概要

### テーマ1：与島の魅力向上による周遊観光の促進

#### (1) インフラツアーの魅力向上

##### ○インフラツアーの魅力向上について

- 思い出・SNS等で情報をシェアするための環境整備として、自撮り用カメラ等のレンタルも検討すべき。 [MELZ 片山構成員]
- インフラツアーズについては、教育的魅力やMICEなど、親和性の高いターゲットから当たっていくことが重要 [観光ビジネス総研 刀根構成員]

##### ○カタマラン周遊等とインフラツアー、瀬戸大橋潜橋体験との組み合わせについて

- カタマランは潮風・波・自然が満喫できる魅力的な乗り物。一方で、速度が遅い、風の有無・強弱、交通事情・時間的な制約が課題 [日本旅客船協会 加藤構成員]
- カタマランは、移動そのものが目的になるという意味で魅力的なコンテンツ。ただ、ウィークポイントとしては速度の問題や、風の有無・強弱に左右される点がある。クルーザーは、天候の制約が限定的でスピーディな移動が可能。提供する事業者もあることから、この組合せもあり得る。 [せとうちDMO 館構成員]
- カタマランでのクルーズは、富裕層のお客様に対してご提案しており既に実施している状況であるが、いまは直島・豊島の周遊しか行っていない。塔頂体験だけのためだけに訪問するのは厳しいと思う、近くの本島での散策も含めてという場合であれば、日程に余裕があれば提案できると思う。天候が悪く船が出航出来ない場合は、高松沿岸や倉敷・岡山などでご案内できるコースを提供する。 [ウィアートル 夢田構成員]

##### ○塔頂体験ツアーとダムツアーの組み合わせについて

- ダムの見学に関しては、個人・団体・旅行会社のツアーについて申し入れがあれば相談に乗り、ダムについてご理解を得ていただくべく、操作室、監査廊の見学や、可能な場合は巡視船への乗船等を提供している。ダムツアーと近隣資源を組み合わせたインフラツアーは人気が高く、塔頂体験とダムの組み合わせのツアーは需要と可能性が高いと考えられる。 [四国地方整備局 西山構成員]
- ツアーにダムを組み入れて頂けると、水の大切さの啓発になり、大変ありがたい。現在はダムの見学を目的とした方のみを対象としており、他の観光地やインフラとの組み合わせが出来ないのが弱い所かと考えている。ダムツアーでは水の大切さの啓発に加え、ダム湖での水上スポーツなどと組み合わせることでの水源地活性化につながる。 [水資源機構 篠原構成員]

- 早明浦ダムという大きな水瓶とした四国の雄大な水供給システム全体を訴求するツアーは、インバウンドへの訴求性が高い可能性がある。塔頂体験ツアーとダムツアーは、自然眺望、体験という共通点が多々ある。関係機関連携のもと、第2回WSに組合せツアーを提案する。

[本四高速 山本構成員]

## (2) 与島発クルーズの魅力開花

### ○「島から島」への横断ルートのクルーズについて

島を訪れて、島の生活を体験してはじめて島の生活の実感が湧く。塩飽諸島の地元の人自身が誇るべき文化があり、貴重な観光資源と考える。実際に島に行こうとすると、行政区域ごとに航路が分かれていることがあり行きづらい。横ぐしでつないだ島旅ツアーは魅力が高まると思う。

[日本旅客船協会 加藤構成員]

### ○訴求性の高い島旅ツアー企画の可能性について

- 他と比較しても、瀬戸内海の島々のコンテンツは人の暮らしに密接にかかわっており豊か。瀬戸内海は郷愁を誘うノスタルジックな海であり、そこで航路のないところをわたるツアーが実現できれば良いと思う。例えば、ノスタルジックというテーマで佐柳島と粟島、過去から現代につながるアートをテーマに粟島と本島のツアーを提案したい。

[Office ひるねこ小林構成員]

- 直島より、自然が豊かで島の暮らしを見られる豊島は評判がよい。歴史や暮らしのようなストーリーは十分なコンテンツになる。ただし、優秀なガイドによる背景を含めた上手な説明がなければ、すごさや深みを伝えられない。

[ウィアートル 冨田構成員]

- 瀬戸内の島々にはガイドは非常に少ない。観光協会もないところが多い。島の方に案内をしてもらうなど、島が主体性を持ってやっていけるとよいのではないか。

[Office ひるねこ小林構成員]

- 塩飽諸島の歴史文化の認知度はまだまだ低いのではないか。離島振興の観点からも発信力強化のためにできることを第2回WSに提案したい。

[本四高速 山本構成員]

## テーマ2：更なる広域周遊観光促進等

### ○岡山・香川の広域周遊観光促進の実現に向けて

- 商品造成についてインバウンドの場合は、広域使用品が必須。点だけでなく"Setouchi Islands"を自由に行き来できる「瀬戸内ワンパス」をいつ実現できるかが商品力につながる。

[観光ビジネス総研 刀根構成員]

- 欧米豪ツアーについては、オーダーメイドの提案しか経験がないが、それをベースに申し上げると、アートアイランド、祖谷に加えて、移動時間中に彼らの好みにあうコンテンツを提供するな

どしている。富裕層に対しては宿がなかなかない等の課題があり、富裕層向け新しいコンテンツは富裕層の他にもエージェントも常に探している。しかし、ストーリーをどのように作るかが課題。  
[ウィアトール 畠田構成員]

- "Setouchi Islands"が世界の目的地として定着し、ゴールデンルートの次に来る目的地になることが重要。近年、認知は向上、現在は、受入体制の整備とコンテンツ・商品の流通整備という次のステップにある。すなわち、マーケット側が瀬戸内のプロダクトを旅行商品に組み込みやすい仕組みの構築。そういう点について、せとうち DMO ではプロダクト開発を並行して行いながら、市場に瀬戸内のプロダクトをプレイスメントできる仕組みを来期やっていきたいと考えている。皆さんと一緒にやっていけたらと考えている。  
[せとうちDMO 館構成員]
- ニューヨーク・タイムズのおかげで"Setouchi"という言葉が注目され、ロンリープラネットで "Shikoku"というワードが世に出た。このような中、具体的な提案型商品が必要である。受け入れ環境の整備とともに、流通を整備していくことが次のステップと考えている。  
[四国ツーリズム創造機構 佐藤構成員]
- ダムツアーの関係では、今後、国土交通省や水資源機構としっかり連携して仕上げていきたい、その際には発信力が重要だと思っている。今後国土交通省や水資源機構と連携して行きたい。当社と国交省が協定を結び、持続性がある仕組みを作れば民間事業者の方も安心して投資できるのではないか。  
[本四高速 山本構成員]
- 国土交通省でも河川・道路・ダムなどインフラツーリズム活性化を通じて、地域の活性化に寄与したいと考えている。その意味で本四架橋と連携して広域周遊に取り組むことは魅力的だし有益だと考えている。水資源機構と連携、国管理施設との連携についても相互の連携協力が速やかにできるよう、協定も含め具体的な手法を検討していく。  
[四国地方整備局 西山構成員]
- 多くのお客様に来訪してもらうことが重要。インフラツアーや島旅の商品が実現できれば外国人の来訪増大につながるだろう。運輸局としても、コンテンツのお手伝いをするとともに、二次交通や受入環境整備について、自治体と連携して進めていく。  
[四国運輸局 渡眞利構成員]
- 環境省でも世界水準のナショナルパークをめざして国立公園満喫プロジェクトを進めている。インバウンドを対象として、海外からの訪問者を増やすための色々な取り組みを行っている。今年度、大山隠岐国立公園と瀬戸内海国立公園をつなぐ広域ルートの検討を行うためのファムトリップを実施予定。その中で、四国の島から広島までを船で移動する予定なので、その結果も共有しながら今後も連携させていただきたい。  
[環境省中国四国地方環境事務所 櫻又構成員]
- 来年度以降も進めていくため、第2回ワークショップで実効性のあるKPIを提供したい。  
[本四高速 山本構成員]

以上